

概要報告

実施期日	7月31日(金)
部会名	中学校 外国語部会

テーマ 『生徒一人ひとりが自分の考えをもち、仲間との学び合いを大切に、主体的に課題解決しようとする学習指導の工夫・改善』

提案概要

○ 実践に向けての課題意識

英語に対する学習意欲は高く、真面目に取り組む生徒が多く、仲間との活動でも協力する姿勢がある。しかし、受動的な生徒が多く、自分の考えを相手に伝える力が身につけていないと感ずることがある。そこで、仲間との学び合いを通し、生徒一人ひとりが主体的に言語活動に取り組めるよう、教材開発や指導の工夫・改善を心がけた。

○ 実践の具体的内容

・ 2年時：『職場体験活動についてのスピーチ』

職場体験について、一人1分程度のスピーチを作成する過程で、グループ活動を取り入れた。各体験場所での特有な語彙や表現を共有するため体験先ごとの班編制を試みた。作文の前に5Wを用いたQAによる言語活動を実施する等、グループ活動の活性化を工夫した。また班内発表においてさらに活用できる表現等より具体的なアドバイスを交換し、個々のスピーチ内容を高める展開とした。

・ 3年時：『飛騨・高山の文化や歴史についてのスピーチ』

修学旅行前の総合的な学習として訪問先の産業や伝統文化について調べ学習をするとともに、英語科でもスピーチ作成に取り組んだ。前年度の実践に基づく展開により、生徒たちもスムーズにグループ学習に向かうことができた。今回は校内研究と連携し、授業で活用する学習班を学年として編制し、グループ活動を進めた。グループ内で高め合った個々の原稿内容を、他のグループに伝える展開を取り入れ、さらに聞き手を意識した経験をすることができ、お互いに学び合える活動となった。

○ 成果と課題

・ 2年時： 体験終了後すぐに実施したため、生徒たちはより積極的に課題に取り組むことができた。また、QA形式で内容を深めたり、グループ内で「おすすめの英文」や「みんなで作成した英文」として発表する場を設けることにより、英語が苦手な生徒にとっての手助けとなり、自分のアイデアが採用された生徒にとっての達成感につながった。

・ 3年時： 修学旅行前の時期なので、とても積極的に学習に取り組んだ。また昨年に続く活動なので、短時間で簡潔に英文を作る等、スムーズに進められる生徒が増えた。自分の文を相手に伝えるペア活動では、相手に伝わりやすい表現を工夫したり仲間から得た情報やヒントをもとにさらに良い表現を練り直したりする取組も見られた。

・ 今後の課題：スピーチ活動は既習内容を活用するために有効なので今後も扱っていきたいが、原稿作成に大変時間がかかってしまう。事前準備や原稿チェック、評価を同時に行っていくため、より綿密な指導計画が必要となる。また単年度だけでなく3年間を見通した指導・評価計画のもと行っていく必要がある。

質疑概要

① 質問：学習班の作り方、その活動範囲や期間について詳細な説明がほしい。

返答：ほぼ全教科で活用するため、リーダー性、運動能力などのバランスを考慮して学年教師が編制する。夏休み前までずっと同じ班で取り組んでいる。秋に替える予定である。クラスによって、座席や生活班と同一の場合と別の場合がある。

② 質問：グループ活動の中での文法ミスについてはどのように対応しているか。グループ内でのアドバイスに誤りがあることが判明した場合、アドバイスをした生徒が傷つく恐れはないか。

返答：極力、活動中の机間指導で指摘するよう努めている。(TTや、少人数だとかなりカバーできる。) また毎回の回収・点検の際に見つけ、班長に指摘し班長から発信させるようにしている。人間関係が良好なため、仲間を非難する雰囲気は見られない。

③ 質問：スピーチ作成中の経過についても評価しているのか、仕上がりのみか。

返答：毎回（最終原稿まで3回程度）の点検とペアまたはグループでの原稿作成の観察、グループでの発表そして最終発表まで、4観点すべてを評価に加えている。

研究協議概要 参加者を7グループに分けて協議を行った。

研究協議の柱として、①「生徒同士で学び合い、高め合う指導の工夫・改善について（学習意欲を高める指導のあり方）」、②「スピーチ等の言語活動を行ううえでの効果的な教科書の扱い方について」の2つを挙げた。その2つの柱について各自の学校での取組や考えなどを協議し、発表した。

①生徒同士で学び合い、高め合う指導の工夫・改善について

- ・帯活動として、教科書の音読・暗唱や単語の暗記等にペアワークを取り入れている。
- ・指導役の生徒を選出し、グループで英作文等に取り組んでいる。ミスの指摘には配慮が必要だが、指導役の生徒にとって、主体的に教え合うことにより、自らの力の確認になり、自信をつけることができる。
- ・あるトピックについて、ペアで Small Talk を実施している。初期には、あいさつやQA、あいづち等のひな形を与えて、徐々に自由な形で発話できるよう指導している。
- ・文法事項等の問題演習において、グループで分からないところを教え合う形態をとっている。
- ・グループでスピーチの原稿添削や伝える工夫を考える活動を行い、発表においても相互評価を用いてアドバイスの交換の機会を与えている。その中で解決できなかったものは、他グループと交流することにより、さらに理解を深めることができる。
- ・まず個人で考えてから仲間と共有する流れを必ず作り、個々に主体性をもたせ、人任せにならないよう配慮している。
- ・班や座席の組み方に左右されることが課題である。うまく機能しないこともある。同一班を継続することで深化することもあるが、帯活動等では新鮮な環境での対話練習も必要である。
- ・コミュニケーション活動が円滑に進むような人間関係の土台作りが大切である。良好な関係の中で、より学び合う姿勢が育まれる。
- ・1年時に、英語の授業においては誰とでもペアやグループで活動するということを定着させ、以降、継続的に指導することでより効果を生むことができる。
- ・目的や目標を具体的に提示することにより、仲良し集団を脱した活動を促す必要がある。

②スピーチ等の言語活動を行ううえでの効果的な教科書の扱い方について

- ・基礎力強化としての教科書の音読にて到達度を明確に提示している。
- ・教科書の新出文型を用いたオリジナルの文を作る機会を設けている。
- ・教科書の本文からスピーチに使える表現を見いだすことを習慣づけるよう指導している。「あの時にやった」と思い出せるような工夫が大切である。
- ・ショートスピーチに使いそうな部分を作文課題として提示し、到達目標（音読・暗記・プラス1文・視覚的に分かりやすい準備等）を具体的に示して伝える工夫をさせている。
- ・教科書の内容を rewrite → retell させる活動をペアやグループで行っている。
- ・新出文型を定着させるために、グループで短いスキットを作り、発表する活動を随時取り入れている。
- ・各課にかける時間や実施する活動を計画的に設定して、創作活動にかける時間確保に工夫していきたい。

まとめ概要

- 仲間と学び合う創作活動において、段階を踏んだ丁寧な指導の実践であった。生徒たちにとって、仲間とともに学ぶことにより吸収できた経験はとても有用なものになる。
- 協同学習では、新たな発見・理解深化・学習意欲の促進・学習内容の定着などが期待できる。そのためには、グループ内でのそれぞれの役割を生徒自身が理解することが必要である。また、観察や点検には時間や手間もかかるが、TTやALTを活用していきたい。
- グループ活動においても明確な目標の提示と振り返りが不可欠である。振り返りでは、グループで取り組む利点を生徒が実感できるようなものを工夫したい。
- 3年卒業時のゴールを見据えて、3年間の指導計画を立てていく。英語科で共通認識をもって指導を進めていく必要がある。教師も協同することにより、負担の軽減やお互いの研鑽につなげていけるとよい。